

製作コーナーを基盤にした3歳児保育の 意義とその実践

— 同調的動作共有による集団形成と遊びの展開 —

Meaning of Early Childhood Education and Care
to Have Thought Much of the Making Corner in the Three-Year-Old Class
—Forming Group and Play by Synchronism of Motions—

高橋 健介* 中山 昌樹** 中田 幸子** 猪越 恵美**
Kensuke Takahashi, Masaki Nakayama, Sachiko Nakada, Megumi Inokoshi

要旨

保育環境としての製作コーナーの意義やその環境を用いた援助のあり方を、製作コーナーを基盤にした3歳児保育の実践およびその観察記録から検討した。3歳児保育の遊び場面において、製作コーナーで保育者が意図的にモノを用いた作業（遊び）モデルを提示することで、幼児はその遊びに動機づけられ、保育者と幼児との間に同調的な動作共有が起こる。この保育者と幼児との作業をともなう同調関係が築かれることで、3歳児は製作コーナーを安定した居場所とし、モノとかかわりながら主体的に遊びを展開できると考える。さらに、保育者と幼児との同調関係を基盤にして、幼児同士の間にも同調関係や“見る－見られる”関係が築かれ、これらの関係性を含みこんだクラスでの集団形成が促されていく。そのなかで、幼児達は互いに見合い、学び合うことによって、主体的に遊びを展開させていくことが考えられる。

キーワード：製作コーナー 3歳児保育 集団形成 遊び

1. はじめに

本研究の目的は、3歳児保育において、クラスの幼児がこの時期に応じた遊び集団を形成し、かつ主体的に遊びを展開するための保育実践のあり方を検討することである。昨今、幼児は、幼稚園や保育所以外の場で、仲間関係を築き、その関係を持続させながら遊びを展開する機会はほとんどなくなっている。それゆえ、3歳児保育の遊び場面においても、幼児達が自然発生的に遊び集団を形成することは難しく、仲間関係が築かれる前に、遊び空間が広がり過ぎると、幼児達はそれぞれに分散し、クラスの他児との継続したかかわりをもちにくくなる。また、幼児達が広く分散することで、担任保育者の幼児それぞれに対する継続した見取りも困難となる。よって、幼児の遊びに対する適時に

*東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科 Toyo University, Faculty of Human Life Design

住所：〒351-8510 朝霞市岡48-1（東洋大学）

**認定こども園あかみ幼稚園

必要な援助や継続した援助が難しくなる。このような保育実践には、3歳児の発達的特性から、それぞれの自己意識が高まっていることを踏まえ、その上でクラスの幼児達が遊びを通してかかわり合う状況性を、どう構成するのかといった観点をもち得ていない。つまり、遊び場面でのクラス集団を視野に入れた援助およびそれに対する思慮が欠如しているのである。

本研究の対象となる認定こども園の3歳児保育では、認定こども園としての特性から、保育経験や保育時間が多様な幼児に対して保育をおこなっている。したがって、このような背景が多様な幼児達への保育といった立場からも、個々の幼児に対応しながら、クラスの集団をどう形成していくのかという実践的な課題をもっている。特に遊び場面においては、幼児の主体性を抑制しない集団形成のあり方が問われているのである。そこで対象園では、製作コーナーを基盤にした遊び保育^{1) 2)}を実践することで、その課題に取り組んできている。よって本研究では、製作コーナーを基盤にした保育が、3歳児としての集団性をいかに保障し、かつ主体的な遊びの展開に結びつくのか、実践の観察記録から検討したい。その上で、3歳児保育における保育環境としての製作コーナーの意義やそれを用いた援助のあり方を探究したいと考えている。

2. 3歳児保育の遊びにおいて集団形成を問うことの意味

(1) 遊びの実践とその研究における集団の扱い

遊びを重視する3歳児保育のこれまでの実践研究では、その観点として、個々の幼児への援助のあり方を問う研究が多かった。中坪ら(2009)の保育者との実践研究では、3歳児の「協同性の萌芽を育む保育者の援助について検討した」としながらも、幼児間の関係性のベースとなるクラス集団を、保育者がどう視野に入れ、対応するのかは、ほとんど触れていない。よって、3歳児クラスでのある幼児の他児とのかかわりにおける個別の理解とその援助を問うことが中心となっている³⁾。また、横山ら(2011)の実践研究においても、3歳児クラス1学期の分析ではあるが、ここでの3歳児保育の成果を「安心・安定の上に築かれる保育」「目の前にいる1人ひとりの子どもに応じた保育」「環境を通じた保育」とし、入園して間もない3歳児が安定した居場所をもてるような個別の援助を重視している⁴⁾。その一方で、多数の幼児達が在籍するクラス集団および幼児同士の関係性に対し、どう保育環境を構成し、その上で援助するのかについては、十分に論じられていない。

これら3歳児保育の実践研究でみられるように、個に対する理解やその援助に着目することは、3歳児の発達特性や保育の状況性から鑑みて、確かに必要なことである。しかし、遊びを重視する保育において、幼児個々の理解やそれにもとづく援助を問うだけでは、クラスのある一部の幼児に対する援助についての検討は可能ではあるが、クラス全体の幼児をどのように見取り、対応するかの検討は困難と言わざるを得ない。小川(2010)が「保育者が幼児一人一人と豊かな関係をもとうとすればするほど、他の幼児との関係を排除するか無視する関係をつくることとなる」⁵⁾と述べるように、個別の援助を中心に検討するだけでは、クラスのその他多数の幼児達との関係性を見過ごしてしまうことが考えられるのである。

また、研究の手法においても、保育現場を対象とする研究として、保育者とある特定の幼児との関係のみを検討することについて、岩田(2011)は、「フィールドとしての保育現場は、集団としての

現象であり、(中略)フィールド(現場)という以上、状況性から個人に関心を特化することは恣意的にはできないはずである。」⁶⁾と指摘する。つまり、保育の場での幼児個々の言動は、保育者を含む集団のあり様に何らかの影響を受けていることが考えられる。その要因を抜きにして検討することは、集団保育⁷⁾を対象とする実践研究としては十分ではない。したがって、3歳児保育の実践研究には、個への援助を検討するにしても、あわせて保育者がクラス集団をどう視野に入れているのかも、その観点に含め検討することが必要と考えるのである。

(2) 3歳児保育における幼児の主体性と集団形成

一方で、奥山(2008)は、個々の幼児への理解と援助という観点だけではなく、幼稚園の「フォーマル集団」をも視野に入れた3歳児保育の遊び場面での実践研究をおこなっている。ここでは、幼児自身が展開する遊びについて、保育者の自覚的および無自覚的にもつ集団観とそれを体現する援助からの影響も検討されており、興味深い研究となっている。しかし、ここでの奥山は、幼児の集団としての育ちを認めながらも、「集団内のかかわりそのものが保育者自身が体現している集団観や規範意識によって集約され、形作られる危険性を孕んでいる」と述べる。それゆえに、観察された幼児が保育者を含むクラス集団から受ける作用を「適応」と捉えることが中心となり、幼児が、保育者のもつ集団観に方向づけられることを危惧するのである⁸⁾。とは言え、保育実践で展開される幼児の遊びは、ストリートプレイとは違い、保育者が意図するクラス集団の枠組み(クラスのねらいなど)から完全に離れて展開されることはあり得ない。保育者が構成する集団の枠組みによる作用を消極的に捉え過ぎるならば、その論理からは、保育者は幼児の遊びには関与せず、ただその様子を離れた場所から見ていることになるのではないか。保育実践での幼児の遊びは、保育者を含む集団から何らかの作用を受けることを前提とするならば、むしろ保育者は、幼児の主体性が十分に発揮されるような保育者と幼児との関係、および幼児同士の関係を含み込んだ集団を形成することが必要と考える。

加藤(2010)においても、「乳幼児を対象とした保育実践において、集団を組織しようとするのは保育者であり、“集団づくり”の目標とイメージは保育者側にある」⁹⁾と述べ、保育者による集団形成を念頭に入れ、その上で実践を検討することの必要性を説いている。さらに、従来から、自己形成との対立概念にあった保育者が形成する集団像に対し、「一人ひとりの子どもが実現する“自分づくり”のアンサンブルとして位置づけ直す」¹⁰⁾ことの必要性を論じ、主体としての幼児と集団との関係について、画期的な議論を展開している。ただし、ここでは、保育者が幼児の主体性が発揮される集団をどう形成していくのか、その具体的な実践論について、十分に議論されているとは言い難い。

小川(2011)は、今後、保育者の専門性を確立していくための1つの柱として、保育者が「あこがれの対象となるモデルの役割を果たすことで、幼児一人ひとりの保育者へのあこがれを形成し、かつ幼児集団の凝集力(求心力)を形成する」¹¹⁾といった集団形成の必要性を上げている。と同時に、「集団で遊びながら、幼児一人ひとりの自由な振る舞いという選択性を保障する」¹²⁾ことも求めている。つまり、集団保育として、保育者を含む集団から受ける作用を前提としながら、その上で幼児の主体性が保障され、発揮されるような集団と個との関係を、実践論として確立することの必要性を言及しているのである。それゆえ、小川(2010)は、数多くの保育現場での観察や指導経験から得た知見をもとに、製作コーナーを常設する保育室内の遊びを中心にした「遊び保育論」¹³⁾を展開する。しかし、

この小川の実践理論は、具体的な保育実践の分析を通して、未だ十分に論証はされていない。そこで本研究では、3歳児保育のその時期に応じた集団形成を視野に入れ、かつ幼児が主体的に遊びを展開する保育実践のあり方について、製作コーナーを基盤にした保育の実践から検討したいと考える。

3. 認定こども園A幼稚園の3歳児保育における製作コーナーとその実践

(1) 3歳児クラスの概要と保育環境としての製作コーナー

対象となる認定こども園A幼稚園3歳児クラス（担任保育者1名、幼児19名）では、保育室に製作コーナーが常設され、その他にも、ままごとコーナー、積み木（プラフォーミング）コーナーが常設されている。本クラスの担任保育者は、登園後の遊びの時間に、製作コーナーの壁側の場所をベースにして、その場になるべく座り、幼児を引きつけ、遊びの動機となるような作業モデルを提示している。あわせて、その場から、製作コーナーや他の場にいるクラスの幼児全体を見取り、必要な際に援助をおこなうようにしている。クラスの幼児にとっても、この場に担任保育者がいることで、保育室のどの場においても、担任保育者が見えやすい状況となっている。こうして保育者と幼児達との間に、互いに“見る－見られる”といった関係性が築かれることで、幼児は、製作コーナーを中心に、保育室内に安定した居場所をもちやすくなる。さらに、製作コーナーでは、担任保育者のモノを用いた手の動きやその動きのリズムが契機となって、幼児は動機づけられ、モノを用いて、自ら同じように手を動かす作業（遊び）をおこなうようになる。つまり、この動作共有が継続されていくことによって、徐々に同調関係が築かれていくようになる。特に3歳児クラスでは、動作共有によって、保育者や他児との同調性を高め、この同調関係を基盤としながら、集団形成が促されていくと考えるのである^{14) 15)}。

(2) 観察および記録の方法

認定こども園A幼稚園3歳児クラスにおいて、登園後から10時45分頃までの遊びの時間に、担任保育者を主に、幼児達の観察をおこなった。観察はビデオカメラを用い、製作コーナーを中心に、なるべく保育室全体が視野に入るよう撮影した。さらに、観察者は記録の補助としてフィールドノートやデジタルカメラを用いて記録した。ビデオやフィールドノート等の記録は、6～8分ごとに、以下の記録のように、環境図によって保育者や幼児の位置等を記した。さらに、製作コーナーにいる保育者と幼児を中心に、各場面の状況や言動を文書化した。なお観察対象の概要、観察回数（時期）は以下のとおりである。

○対象園：栃木県S市認定こども園A幼稚園

○対象クラス：3歳児クラスC組（担任保育者〔当時勤続4年目〕1名、幼児19名）

○観察回数：2011年6月より2012年3月までに計13回の観察をおこなった。

(3) 記録と考察

1) 記録について

本稿では、2011年10月20日（記録①）と2012年1月26日（記録②）の記録を示す。認定こども園A幼稚園3歳児クラスの教育課程・Ⅱ期（6月上旬～9月中旬）の保育内容（「育ちの概要」）には、「担任と一緒にいる中で居場所が見つかる」「保育者や友達と同じ動作を楽しむ」と記されている。実際の6、7月の観察では、担任保育者のいる製作コーナーを居場所にして、保育者の作業（遊び）モデルに同調して遊ぶ幼児も見られたが、居場所が安定せずに、保育室内やテラスを転々と歩きまわる幼児も見られた。また、担任保育者が製作コーナーを離れると、その場が安定した居場所にならず、離れてしまう幼児もいた。製作コーナー以外の場では、他児と遊びの場を共有し、さらにそれを継続させながら遊ぶ幼児は少なかった。

そこで、まず記録①（10月20日）を検討の対象としたのは、教育課程・Ⅲ期（9月中旬～1月上旬）において、個々の遊びを中心としながらも、「みんなと一緒にやる楽しさを感じる」ことを保育内容（「育ちの概要」）に位置づけており、この時期は、幼児が保育者や他児との同調的動作共有によって、仲間との関係を築いていくことを想定し、保育を展開していると考えたからである。次に、記録②（1月26日）を検討の対象としたのは、教育課程・Ⅳ期（1月中旬～3月）の保育内容（「育ちの概要」「育ちの詳細」）に「友達と一緒にいる心地よさを感じる」「好きな遊びを気のあった友達と楽しむ姿が見られる」と記されているように、この時期は、これまでの同調関係を基盤にしなが、仲間と志向を共有する遊びに向けた保育が展開されていると考えたからである。

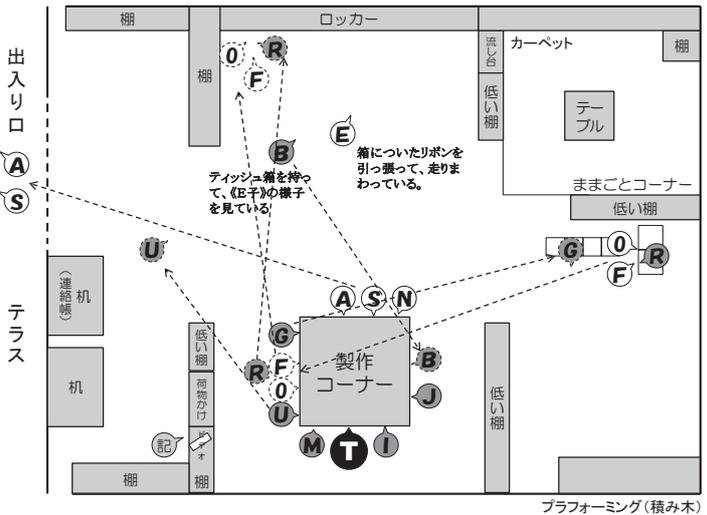
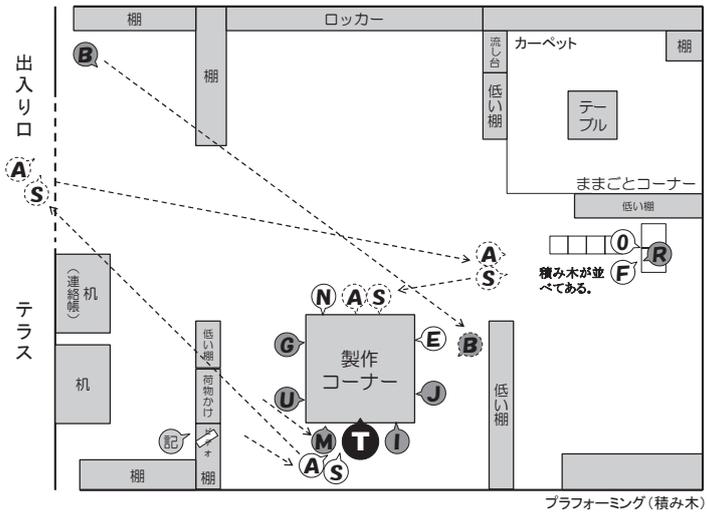
記録①（10月20日）は<表1><表2><表3><表4>、記録②（1月26日）は<表5><表6><表7><表8>を参照。（記録において、担任保育者は㊦と明記）

<表1> 記録①-1：2011年10月20日（木） 9:36～9:42

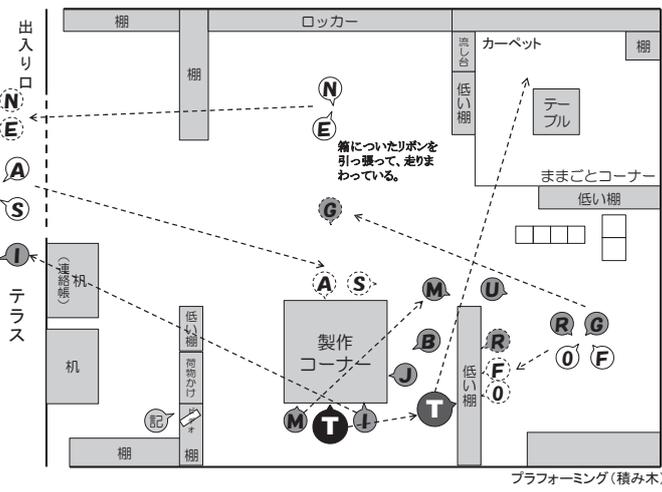
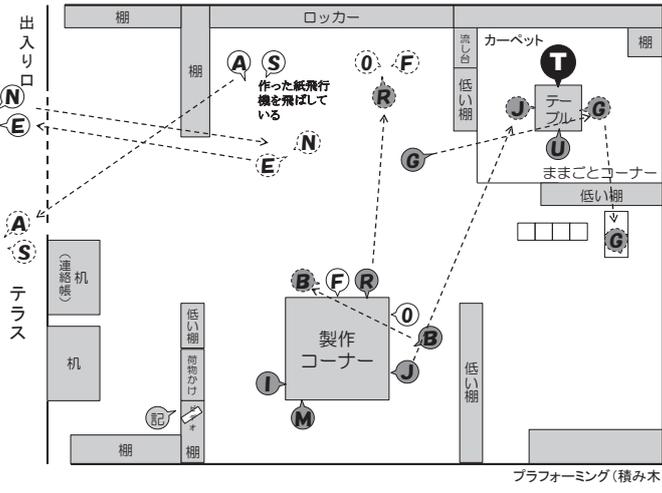
9:36	<p>【製作コーナー】の㊦、紙を折り、折り線に沿って紙を切る。㊦、紙を切りながら、【製作コーナー】のまわりを歩きまわり、その後、傍に立って㊦の作業を見ていた《G男》に話し掛ける。《G男》ロール芯を持って、㊦の隣に座る。㊦ 登園準備を終えた《J男》が【製作コーナー】に来て、棚から材料を探し始める。空き箱を取り出し、座る。㊦【積み木コーナー】にいた《O子》、【製作コーナー】に来て、ドンダリの入った箱に、さらにテープを付け始める。㊦ ㊦、切った紙を重ね、揃えながら、対面にいる《F子》の作業の様子を見ている。㊦、ロール芯を取り出し、その口に紙をあて、それを《G男》に見せる。㊦ その様子を《U男》も見ている。《M男》が登園し、保育室に入って来る。㊦、《M男》に手を振り、「《M男》ちゃん、おはよう」と声を掛ける。《M男》、カバンを降ろし、荷物整理を始める。㊦、その様子を見届けると、筒にあてた紙をテープで貼る。《G男》、その様子を見ている。《E子》、ドンダリ入ったティッシュ箱の空き口が開き、それ（マラカス）を持って振り始める。カサカサカサと音が鳴る。㊦、紙で片側をふさいだロール芯を、《G男》に見せ、それを渡す。《G男》、受け取り、自分が持っていたロール芯と重ねる。㊦、その様子を見ている。㊦ ㊦、出入り口付近で立っている《B男》を見る。㊦、立ち上がり、《B男》のところへ行き、声をかけ、話をする。㊦</p> <p>【製作コーナー】では、《N子》がおにぎりをいくつも作り、空き箱に入れる。《I男》、新しい広告紙を取り出し、それを小さくちぎり、箱に入れる。《G男》、㊦から受け取ったロール芯を置き、自分が持っていたロール芯に紙をあて、セロテープでとめる。《F子》、《O子》、出来あがったドンダリ入った箱（ケイタイ）を持って、【積み木コーナー】に行く。㊦ ㊦、【製作コーナー】に戻ってきて、棚から、ティッシュの箱を取り出し、席に座る。</p>
------	---

<表2> 記録①-2 : 2011年10月20日 (木) 9:42~9:52

<p>9:42</p>	<p>①、ティッシュ箱にドングリを入れ、空き口を紙でふさいでいる。登園した《A子》が①の傍に来る。《A子》、①の肩を触りながら、①の作業の様子を見ている。登園した《S子》、①の傍に来て、①の作業の様子を見ている。①、《A子》と《S子》に話しかけ、二人とハイタッチをする。《A子》と《S子》、[製作コーナー]から離れ、テラスに出て行く。登園後の荷物整理を終えた《M男》、[製作コーナー]に来て、①の隣に座る。①、箱からイチョウの葉を取り出す。《G男》、①が手に取ったイチョウの葉を見て、①に話し掛ける。①、それに応える。《I男》、①が持っているイチョウの葉を見ている。①、《I男》に話し掛ける。①、イチョウの葉を色紙に貼りつける。</p> <p>①、ティッシュ箱をハサミで切り始める。《A子》と《S子》、テラスから保育室に入ってくる。二人で、[積み木コーナー]に近づき、《O子》、《F子》、《R男》の様子を見ている。《A子》と《S子》、振り返って、[製作コーナー]に近づき、①の作業の様子を見る。①、それに気づき、《A子》と《S子》に声を掛け、椅子置き場を指さす。《A子》と《S子》、椅子を取りに行き、[製作コーナー]に持って来て、座る。①、ティッシュ箱の上部を切り取って箱を作り、そこにイチョウの葉を貼った色紙を入れる。さらに、色紙を折って、テープでとめ、それを箱に入れる。</p> <p>出入り口の近くで座っていた《B男》が、[製作コーナー]の近くに来る。《B男》、①の作業の様子を見ると、棚から材料を探し始める。《B男》、ティッシュ箱を棚から取り出す、[製作コーナー]の周りを歩き回る。①《E子》の箱にキラキラテープが付き、それを持って、[製作コーナー]の前のスペースに行く。</p>
<p>9:48</p>	<p>《E子》、[製作コーナー]の前のスペースで、キラキラテープを持ち、箱を引きながら、走りまわっている。その傍で、《B男》がティッシュの空き箱を持ちながら、じっと見ている。①、[製作コーナー]の①、色紙を折り、それにイチョウの葉を付けている。出来たものは箱に入れている。①、作業をしながら、《E子》や《B男》の様子を見る。</p> <p>[積み木コーナー]にいた《O子》と《F子》が、[製作コーナー]に戻ってくる。《O子》と《F子》、それぞれが持っていた箱(ケイタイ)に、切った折り紙を付ける。①《A子》と《S子》、広告紙で飛行機を折っている。《N子》、おにぎりが箱一杯になり、ふたをセロテープでとめる。《B男》が、ティッシュの空き箱を持って、[製作コーナー]に戻ってくる。立ったまま、前に乗り出して、幼児達がそれぞれにやっている作業を見まわす。①</p> <p>[積み木コーナー]にいた《R男》、《O子》と《F子》の傍に来て、二人の作業の様子を見ている。《O子》、箱(ケイタイ)に飾りが付き、それを持って、前のスペースに行く。《E子》と《R男》、《O子》に付いて行く。3人で壁際に座り、それぞれの箱(ケイタイ)を見ている。3人立ち上がり、[積み木コーナー]へ行く。その様子を見て、《U男》も[積み木コーナー]へ行く。</p> <p>《N子》、おにぎりの入ったお弁当箱が出来上がり、それを持って[製作コーナー]から、その前のスペースへ行く。《A子》と《S子》、折った飛行機を持って、テラスへ出て行く。</p>

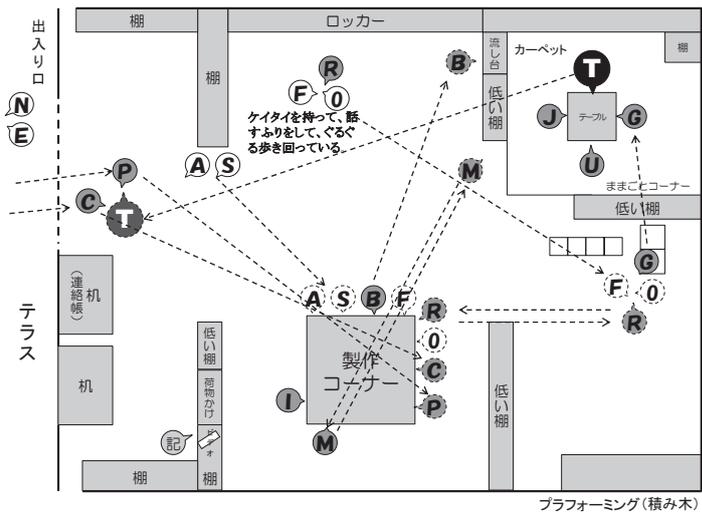


<表3> 記録①-3：2011年10月20日（木） 9:52~10:03

<p>9:52</p>	<p>〔製作コーナー〕で①、色紙に落ち葉を貼り、その紙を折り合わせ、テープで貼っている。《M男》、箱から落ち葉を2枚取り出し、つなぎ合わせている。《J男》《I男》、箱にダングリを入れ、マラカスを作っている。《B男》、ティッシュ箱を持って、〔製作コーナー〕の①、《I男》、《G男》の様子を見ている。その後、〔製作コーナー〕前の様子、〔積み木コーナー〕の様子を見る。②</p> <p>〔積み木コーナー〕でいざごが始まる。①、〔製作コーナー〕からその様子を見ている。《O子》、「やだって言うてるでしょ」と声を上げる。①、立ち上がり、〔積み木コーナー〕に近づき、棚を挟んで《O子》《F子》《R男》と話をする。《B男》、①と幼児達が話している様子を見ている。《M男》も立ち上がり、〔積み木コーナー〕に近づき、①と幼児達の様子を見ている。《I男》、マラカスが出来あがり、それを持ってテラスに出て行き、そこでマラカスを盛んに振って音を鳴らす。《A子》と《S子》が紙飛行機を持って、〔製作コーナー〕に戻ってくる。《A子》、紙飛行機にテープを貼る。③ 《S子》、〔積み木コーナー〕の①と幼児達を見る。《N子》《E子》、作った箱を持って、テラスに出て行く。</p> <p>①、《O子》達との話が終わると、〔製作コーナー〕の机の散らばった素材や道具を整理し始める。整理が終わると、先ほど作った色紙とそれが入った箱を持って、〔ままごとコーナー〕へ行く。〔ままごとコーナー〕に行くと、壁側を背にして座る。それを見て、《U男》が、〔ままごとコーナー〕に入ってくる。《I男》、マラカスをテラスのカバン掛けにあるカバンに入れ、〔製作コーナー〕に戻ってくる。</p>  <p>出入り口 N E A S I テラス 機 低い棚 ロッカー 製作コーナー 低い棚 カーペット テーブル ままごとコーナー 低い棚 R G O F J B M U T M I 低い棚 ブラフォーミング(積み木)</p>
<p>9:57</p>	<p>〔ままごとコーナー〕の①、広告紙をちぎりボールに入れ、それを繰り返す。〔ままごとコーナー〕の近くで①の様子を見ていた《G男》が、靴を脱いで〔ままごとコーナー〕に入ってくる。《G男》、①の傍に立って、作業の様子を見ている。《G男》、テーブルの上にあったオタマを持ち、ボールの中に入った紙をかき混ぜ始める。《U男》、立ち上がり、かごを持って、流し台に行き、かごを洗うふりをする。</p> <p>〔製作コーナー〕で、《M男》がプリンカップで作ったマラカスに小さく切った紙を貼って模様を付けている。《I男》、棚からティッシュの箱を4つ取り出し、テーブルの上に並べる。《O子》《E子》、プリンカップで作ったケイタイにテープを貼っている。《R男》、2人の様子を見ている。《J男》、ハサミで紙を切っている。切った紙を持って、〔ままごとコーナー〕へ行く。《B男》、ティッシュ箱とリボンを持って、〔製作コーナー〕の行き、他児の作業の様子を見ている。④</p> <p>〔製作コーナー〕前のスペースで、《A子》と《S子》が紙飛行機を飛ばしている。ひとしきり飛ばすと、2人でテラスに出て行く。</p> <p>〔ままごとコーナー〕で①、紙を切って、ボールや箱に入れている。《G男》、箱に入った紙をボールに入れ替えると、〔ままごとコーナー〕を出て、〔積み木コーナー〕へ行く。①、ボールに入った紙をしゃもじでかき混ぜる。その様子を《J男》がじっと見ている。《J男》、棚から空き箱を取り出し、その中に切った紙を入れ、しゃもじでかき混ぜ始める。</p> <p>《O子》《F子》《R男》が、テープを貼り終えたケイタイを持ち、〔製作コーナー〕からその前のスペースに行き、それぞれが向き合って、ケイタイで話すふりをする。3人でケイタイを持って話しながら、ぐるぐる回る。〔製作コーナー〕から、《B男》が3人の様子をじっと見ている。《B男》、《O子》のケイタイと同じように、箱にリボンをテープで付ける。⑤ 〔ままごとコーナー〕から、①も3人の様子をしばらく見て、その後話し掛ける。①、作業に戻る。</p>  <p>出入り口 N E A S I テラス 機 低い棚 ロッカー 製作コーナー 低い棚 カーペット 洗い台 テーブル ままごとコーナー 低い棚 G J U T M I 低い棚 ブラフォーミング(積み木)</p>

<表4> 記録①-4 : 2011年10月20日 (木) 10:03~10:10

10:03	<p>①、[ままごとコーナー]で作業をしながら、保育室の幼児達の様子を見まわしている。《J男》《U男》、紙をちぎってボールや箱に入れている。[製作コーナー]の《M男》、2つのマラカスを色紙で模様を付け、リボンでつなぎ合わせたものを持って、[ままごとコーナー]に行く。マラカスを①に見せる。①、応える。《M男》、マラカスを持って走りまわり、[製作コーナー]に戻ってくる。</p> <p>[製作コーナー]では、《I男》が4つのティッシュ箱を、テープで横に長くつなぎ合わせている。《B男》、ティッシュ箱にリボンをつける。リボンを持って、ティッシュ箱を引いて歩きまわり、[ままごとコーナー]の①のところへ行く。箱を持ち、①に見せる。①、それに応える。《B男》、見せ終わると、箱を床に置き、リボンを引いて歩きまわる。②</p> <p>①、[ままごとコーナー]で作業をする。《G男》が[ままごとコーナー]に入ってきて、テーブルに食器を並べ始める。《P男》が登園し、保育室に入ってくる。[ままごとコーナー]の①、それに気づき、《P男》に手を振る。①、切った紙を《G男》が並べた食器に入れる。①、立ち上がり、《P男》の傍に行き、しゃがむ。①、《P男》と話をする。《A子》と《S子》が、傍に近づいてきて、①と《P男》の様子を見ている。①、それに気づき、2人に話しかける。《A子》と《S子》、[製作コーナー]へ行く。自由画帳を取り出し、座って、絵を描き始める。《O子》、《F子》、《R男》、[製作コーナー]に戻ってきて、相談し、確かめながら、それぞれのケイタイをキラキラテープでつなぎ合わせ始める。つなぎ合わせると、3人でそれを持って、[積み木コーナー]へ行く。③</p> <p>《C男》が、登園し、保育室に入り、①の傍に来る。①、《C男》に声をかけ、ハイタッチをする。《P男》、荷物整理が終わり、[製作コーナー]へ行って、ティッシュ箱とロール芯を取り出し、制作を始める。④</p> <p>①、立ち上がり、[積み木コーナー]へ行く。《C男》、荷物整理が終わり、[製作コーナー]へ行く。⑤</p>
-------	---



2) 考察① (記録①-1、2、3、4より)

本記録①での午前の遊び時間において、担任保育者は、なるべく製作コーナーの壁側の席に座り、その場で製作物を作り、手を動かす作業モデルを提示していた(記録の網掛け部分)。この間に時間差で登園してくる幼児のなかには、この担任保育者の作業モデルに引きつけられ、まずは製作コーナーを居場所とする姿があった(下線b(h))。登園後、自身の遊びや居場所が定まらず、歩きまわるなどしている幼児(下線a(f(i)))も、保育者がその場に行きかかわることもあった(下線f)が、自ら製作コーナーに近づき、その場を居場所にする姿が見られた(下線a(i))。このような遊びや居場所が定まらない幼児に対し、保育者は、幼児が製作コーナーに自ら近づき、保育者や他児の作業をじっと見ている時に、作っているモノを見せ、材料を渡す(下線d(e))、声をかけ、座る場所を伝える(下線i)などの援助を、製作コーナーからおこなっていた。ここでの担任保育者は、保育室全体を見渡せる製作コーナーの壁側の場所から、製作コーナーやそれ以外の場にいるクラスの幼児全体の状態(現在と過去)を見取り、幼児それぞれの志向や状況に応じた援助をおこなったことが考えられる。また、製作コーナーで作ったモノを用いて、それぞれの拠点(積み木コーナーなど)で遊ぶ幼児達も、製作コーナーに行き、製作物を作り直すなど、自らの作業や遊びを継続しておこなう姿があった(下線c(g)①②③)。

記録された時間(約35分)において、製作コーナーでは、幼児の出入りはあったが、この場で作業

を続ける幼児もいるなど、常に多数の幼児が集まり、それぞれの作業がおこなわれていた。製作コーナーでの保育者や他児の作業（遊び）を見ていながらも、なかなかすぐに製作コーナーに来れない幼児も、徐々にその場に近づき、その幼児なりのペースで遊びを始める姿もあった（下線①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿）。このように、製作コーナーが多くの幼児が集まり、安定した居場所になるのは、保育者があまり動きまわらずに、製作コーナーの決まった場所で作業モデル（作っている姿や製作物）を示していることの要因が大きいと考える。幼児達は、継続して提示される保育者の作業モデルによって動機づけられ、さらに見てまね（学び）ながら、自らの意思で作業（遊び）を展開することができたのである。

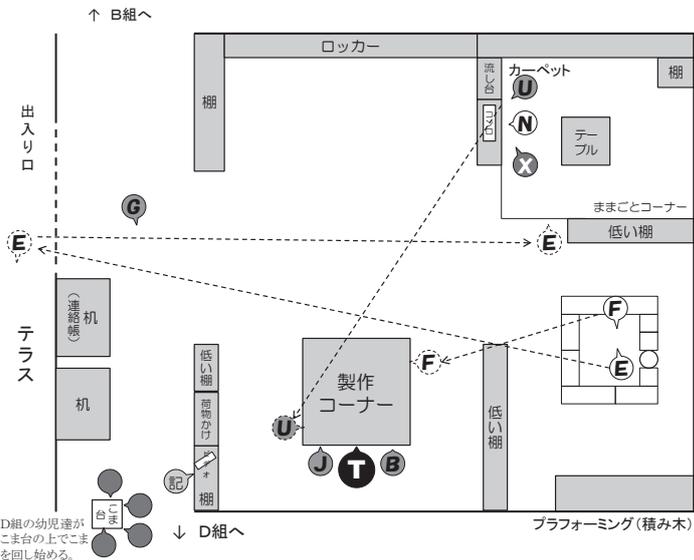
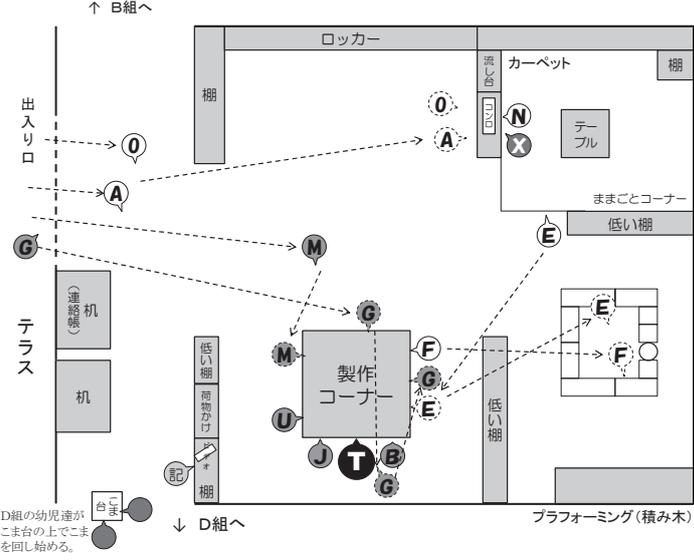
さらに、製作コーナーでは、複数の幼児それぞれがモノと向き合って作業をおこなうので、落ち着きながらも賑わいのある場となっている。その上、手を動かす作業を共有するので、幼児達は身体的な同調性を高め、多くの幼児達が動作共有による同調関係を築いていくことが考えられる。また、このような場の雰囲気は、他の場にいるクラスの幼児達に対しても求心力として働くことが考えられる。製作コーナーでの幼児達の作業が安定することで、保育者がその場にいらなくとも、登園したばかりの幼児などが製作コーナーを居場所にし、作業をおこなう姿があったのである（下線㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿）。

したがって、製作コーナーは、保育者と幼児との関係が築かれるだけでなく、クラスの幼児達が自らの意思によって作業をおこない、さらに同調関係を築いていくことで、3歳児クラスの集団形成が促されていく場としての意義をもつことが考えられるのである。

<表5> 記録②-1：2012年1月26日（木） 9:34~9:42

9:34	<p>[ままごとコーナー]の①、広告紙を折り、その折り目を手でちぎっている。《N子》、その様子を見ている。《U男》、切られた紙を、ボールや食器に入れている。[積み木コーナー]では、《F子》と《E子》が積み木を並べ、囲いを作っている。《G男》、その様子をじっと見ている。《G男》、テラスへ出て行く。[製作コーナー]では、《J男》が牛乳パックをハサミで切っている。B組の《X子(B組)》が折り紙をハサミで丸く切り、それを袋に入れている。</p> <p>《B男》が登園し、保育室に入ってくる。①、《B男》に気づき、傍に行く。しゃがんで《B男》と話をする。②、《B男》、荷物整理を始める。③、[製作コーナー]へ行き、机の上に散らばっている紙クズを広い集め、その後座る。《X子(B組)》が切ったものをいれた袋の口を開き、④に見せる。④、のぞき込んで、それを見て、話しかける。《X子(B組)》、袋を持って、[ままごとコーナー]へ行く。「入れてっ」と言い、中へ入って、持っていた袋を《N子》に渡す。</p> <p>[製作コーナー]の①、広告紙を折って手でちぎる。荷物整理を終えた《B男》が[製作コーナー]へ来る。棚から、材料を探し、空き箱を取り出す。持っていた空き箱を⑤に見せる。⑤、それに応え、他の箱を指さす。《B男》、持っていた空き箱と別の空き箱4つを持って、机に置く。さらに棚から、プリンカップを2つ取り出し、机に置く。⑥、①、紙で作った腕に付けるアクセサリを《F子》に見せ、声をかける。《F子》、①の傍に行き、アクセサリを受け取り、それを空き箱に入れ、[積み木コーナー]に戻る。⑦、①、プリンカップに紙で作った棒を付け、それを[ままごとコーナー]に持って行く。それを《N子》に渡し、[製作コーナー]に戻ってくる。⑧</p>
------	--

<表6> 記録②-2: 2012年1月26日(木) 9:42~9:58

<p>9:42</p>	<p>[製作コーナー]の①、[ままごとコーナー]の幼児達を見ながら、広告紙を折り、切っている。《J男》、4つのプリンカップをテープでつないでロボットを作っている。《B男》、空き箱をテープでつなぎ始める。①、牛乳パックとプリンカップを棚から取り出し、牛乳パックをハサミで切り始める。</p> <p>[積み木コーナー]から、《F子》が[製作コーナー]に来て座る。机の上の箱から折り紙を取り、折り始める。⑤ [ままごとコーナー]から《U男》が、[製作コーナー]に来て、①の様子を見ている。①、持っているカップと牛乳パックを切った棒状の細長い紙を見せ、話す。《U男》、うなずく。①、カップと棒状の紙を《U男》の前に置く。⑥ ①、また牛乳パックを切り始める。《U男》、棒状の紙を、切り始め、切ったものをプリンカップに入れる。⑦ [積み木コーナー]に残っていた《E子》が[製作コーナー]の《F子》の傍に来る。《F子》の作業の様子を見て、その後、テラスに出て行く。《J男》、プリンカップ作った2脚のロボット(主に脚の部分)を立て、①を見る。①、気づき、ハサミで牛乳パックを切りながら、顔をよせ、《J男》に話しかける。《J男》、うれしそうに答える。①、《U男》のハサミの使い方を見て、自身が持っていたハサミで、持ち方を《U男》に見せ、教える。《U男》、ハサミを持ちかえ、切り始める。①、《U男》が左手で持っている紙を、手で持ち支える。《U男》、紙を切る。</p>  <p>↑ B組へ ↓ D組へ</p> <p>出入り口 テラス ロッカー カーペット テーブル ままごとコーナー 低い棚 製作コーナー 積み木 プラフォーミング(積み木)</p> <p>D組の幼児達がこま台の上でこまを回し始める。</p>
<p>9:50</p>	<p>[製作コーナー]の①、広告紙を折り、手でちぎる。《B男》、空き箱を積み重ね、テープでつなぎ合わせようとしている。①、箱を押さえながら、《B男》に話しかける。《M男》が登園し、保育室に入って来る。①、《M男》の方を見て、手を振って、「《M男》ちゃん、おはよう」と声をかける。《M男》、[製作コーナー]に近づき、①に話をする。② ①、うなずきながら、応える。《U男》、立ち上がり、①に話しかける。①、うなずきながら聴く。《M男》、棚から、空き箱を取り出し、[製作コーナー]に座る。③ 《U男》、ロッカーから自由画帳を取り出し、[製作コーナー]に戻ってくる。自由画帳に絵を描き始める。④、《B男》の作業を手伝いながら、[積み木コーナー]で歩きまわっている《E子》に話しかける。《E子》、①に近づき、話を聞く。⑤、両手でネコの耳を作りながら、[ままごとコーナー]の傍にいる《E子》に話す。⑥ 《E子》、[製作コーナー]に来て、棚から広告紙を取り出し、それを①に見せてから、座る。広告紙を折り、作り始める。⑦ 《F子》、折っていた折り紙を空き箱に入れ、それを持って[積み木コーナー]へ行く。⑧ 《G男》、テラスから[製作コーナー]に来て、幼児達の様子を見ている。①、声をかけ、話す。《G男》、棚から広告紙を取り出す。広告紙を持って、①の傍に行き、話をする。⑨ 《A子》と《O子》が登園し、保育室に入ってくる。①、気づき、手を振って「《A子》ちゃん、《O子》ちゃん、おはよう」と声をかける。⑩ 《G男》、[製作コーナー]の棚を探しまわり、さらにロッカーからクレヨンを持って来て、また①の傍に行く。①、話をしながら、広告紙を折り重ね、それを丸く切る。円状に切った数枚の紙を《G男》に渡す。《G男》、円状の紙とクレヨンを持って、座る。⑪ 《E子》、広告紙で作った棒状のしっぽができる。①にしっぽをお尻に付けてもらい、[積み木コーナー]へ行って、また①の傍に戻ってくる。再度、①にしっぽを付け直してもらい、また四つん這いになって[積み木コーナー]へ行く。⑫</p>  <p>↑ B組へ ↓ D組へ</p> <p>出入り口 テラス ロッカー カーペット テーブル ままごとコーナー 低い棚 製作コーナー 積み木 プラフォーミング(積み木)</p> <p>D組の幼児達がこま台の上でこまを回し始める。</p>

<表7> 記録②-3：2012年1月26日（木） 9:58～10:11

<p>9:58</p>	<p>【製作コーナー】で①、《B男》と一緒に空き箱をつなぎ合わせ、《B男》の車を作っている。《G男》、広告紙にクレヨンで何枚も絵を描いている。《M男》、空き箱をつなぎ合わせた車ができ、それを持って立ち上がり、動かしている。①、《M男》に声をかける。《M男》、うれしそうに応える。《M男》、棚から空き箱をもう1つ取り出し、【製作コーナー】に座って、車に空き箱をつなぎ始める。② 《O子》が①の傍に来て、胸の名札を①に見せながら、話しかける。①、それに応える。続いて、《A子》が①の傍に来る。①、《A子》とハイタッチをする。《A子》と《O子》、【製作コーナー】の幼児達の作業の様子を見ている。①、《A子》と《O子》に、それぞれの作業について、指さしながら説明する。【ままごとコーナー】や【積み木コーナー】の様子についても伝える。《A子》と《O子》、2人で話している。《A子》と《O子》、①に話す。①、じっくり聞きながら、応える。《U男》、立ち上がり、①に話しかける。①、立ち上がり、《U男》《A子》《O子》と一緒に、D組の幼児達がコマ回しをしているコマ台のところへ行く。③ 《B男》《J男》《M男》、【製作コーナー】でそれぞれの作業を続ける。《S子》、登園し、保育室に入ってくる。</p> <p>コマ台では、B組の5人の幼児達がコマを回している。回したコマの軸に、小さく切った折り紙を入れ、その紙が回ることを楽しんでいる。《U男》《A子》《O子》、近くに行って、その様子を見ている。①、コマを回す。《U男》、コマを回し始める。《A子》もコマを回し始める。④ 《G男》と、作った車を持った《M男》が、コマ台のところに来て、コマ回しの様子を見る。</p> <p>《C男》と《H男》が登園し、保育室に入ってくる。《O子》、コマ台から離れ、保育室内を歩きまわる。《A子》、《O子》の傍に行き、一緒に歩きまわる。①、立ち上がり、【製作コーナー】に戻る。《M男》、《B男》も【製作コーナー】に戻る。《U男》、《G男》、コマ台に残り、D組の幼児達とコマ回しを続ける。《J男》、コマを持ち、ひもを巻き、コマ回しに行く。1回すると【製作コーナー】に戻ってくる。⑤ 《A子》、【製作コーナー】に戻ってくる。</p>	
<p>10:06</p>	<p>①、【製作コーナー】に座り、折り紙を折り始める。《B男》が作った車を見せる。①、車を受け取り、《B男》に話す。【製作コーナー】に戻った《J男》、コマにのせる折り紙を切り始める。⑥1 《M男》、作った車に改めて手を入れている。《L子》が登園し、保育室に入ってくる。①、折り紙を折り、その角をハサミで切る。折り紙を開くと、花の形ができる。《A子》、①の作業を見ている。《A子》、コマにのせる折り紙を作るため、折り紙を折り、ハサミで切り始める。⑥2 コマ台にいたD組の男児2名が【製作コーナー】に来る。男児達、①に話しかける。①、それに応える。D組の男児達、少しの間、【製作コーナー】の幼児達の様子を見て、D組に戻って行く。《A子》、折った折り紙を切ろうとするが、どの位置を切ればいいのかわかっている。①、折り紙を受け取り、切る位置に線を引き、《A子》に渡す。⑥3 《J男》も折り紙を切る。紙を開くと、花の形ができています。①、「そーう」と声をかける。⑥4 《P男》が登園し、保育室に入ってくる。①、それに気づき、手を振りながら「おはよう、《P男》ちゃん、待ってたよー」と声をかける。⑥5</p> <p>【ままごとコーナー】の《N子》と《X子(B組)》、【製作コーナー】前のスペースにシートを敷き、【ままごとコーナー】から道具を運び出し、シートの上に並べる。</p> <p>①、《B男》の車の空き箱のつなぎ部分をテープで補修する。《B男》、その様子を見ている。《C男》が荷物整理を終え、【製作コーナー】に近づき、様子を見ている。①、「《C男》ちゃん、おはよう」と声をかける。《C男》、棚のところへ行き、そこから【製作コーナー】や【積み木コーナー】の様子を見る。《H男》、《C男》の傍に行き、【製作コーナー】の様子を見る。⑥6 《H男》、【ままごとコーナー】の付近に行き、そこから保育室内を見回す。《C男》、さらに【製作コーナー】に近づき、①の作業を見ている。①、《C男》に話しかける。《C男》、うなずく。《H男》が《C男》に近づき、声をかけ、2人で【製作コーナー】から離れて行く。《B男》、立ち上がり、車に付いたキラキラテープを引っ張って、【製作コーナー】前のスペースを歩きまわる。</p>	

<表8> 記録②-4: 2012年1月26日(木) 10:11~10:17

<p>10:11</p>	<p>《K男》が登園し、フリーの保育者と一緒に保育室に入ってくる。荷物整理が終わると、[積み木コーナー]へ行く。《K男》、《E子》と《F子》と《O子》が遊んでいる近くまで来て、はしゃいで動きまわり、3人の前でポーズを決める。その後、並べてある積み木の上にある。積み木から降りると、[製作コーナー]に来て、①の横に座る。《K男》、広告紙を丸め、細い棒を作る。①、上手く丸められない《K男》の広告紙を受け取り、細長い棒を作り、《K男》に渡す。《K男》、また作り始める。①、《K男》の作業の様子を見ている。②[製作コーナー]前のスペースでごっこ遊びをしていた《X子(B組)》が①の傍に来て、話す。①、それに応える。《X子》、戻って行く。[積み木コーナー]にいた《O子》が①の傍に来る。①が《K男》の作業を手伝っている様子を見ている。①、《O子》に話しかける。荷物整理を終えた《S子》が[製作コーナー]に来て、座る。《S子》、①と《K男》が一緒におこなっている作業をじっと見る。①、《S子》に声をかける。②③ 《S子》、机の上の箱から折り紙を取り出し、折り始める。②④ 荷物整理を終えた《L子》が、[製作コーナー]に来る。棚から広告紙を取り出し、座る。広告紙を丸め始めるが、周りの様子を見ている。③⑤ 《A子》、切った折り紙を持って、コマ台のところへ行き、回したコマにそれをのせる。</p> <p>(31) 保育室内を歩きまわっていた《C男》と《H男》が、[製作コーナー]に近づいて来る。[製作コーナー]の棚の付近から、[製作コーナー]の様子を見る。さらに、[積み木コーナー]や[製作コーナー]前のスペースで遊んでいる幼児達の様子を見る。[製作コーナー]の《K男》、広告紙の棒を持って立ち上がる。①、《K男》、《O子》の3人で話をする。①、《K男》の棒を持ち、《K男》が棒にテープを貼る。《O子》、[積み木コーナー]へ戻っていく。荷物整理を終えた《P男》がコマを持って、①の傍に来る。①、《P男》に声をかけ、話をする。《P男》、[製作コーナー]を離れ、歩きまわる。《K男》、棒にリボンをつける。それを持って、[積み木コーナー]へ行く。</p>	
--------------	---	--

※記録②において、隣のクラスB組の《X子》が、C組(対象クラス)の保育室で、C組の《N子》との遊びを継続して展開している。《X子》と《N子》は、2学期後半から、2人で遊ぶ姿がたびたび見られている。C組の保育者は、B組の保育者と情報交換をおこない、連携することで、2人の継続した関係による遊びを見守っている。

3) 考察(記録②-1、2、3、4より)

本記録②において、この時期(1月下旬)の3歳児クラスの幼児の一部は、保育室内の積み木コーナーやままごとコーナーに遊びの拠点を築き、仲間とともに、その場での遊びを展開し始めている。このような状況においても担任保育者は、製作コーナーをベースにして、壁側の決まった場所から、作業(遊び)モデルを提示し(記録の網掛け部分)、さらに、保育室内のクラスの幼児全体を見取っている。時間差で登園してくる幼児に対しては、傍に行ってもかかわる(下線①)こともあったが、そのほとんどは、製作コーナーの壁側の場所から、顔を見合わせ、声をかけたり(朝の挨拶など)、手を振るなどの対応をしていた(下線⑧⑭⑮⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺)。この時期、多くの幼児達は、保育者が直にかかわらなくとも、製作コーナーを中心に、それぞれの遊びの取りかかりとなる居場所をもてるようになってきている(下線②⑨㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺)。(一方、未だに遊びが定まらない少数の幼児に対し保育者は、その幼児が求める遊びを一緒におこなうなどのかわりをして(下線⑮⑱)。)多くの幼児達が居場所を持ち、ある程度自立して遊びを始めるようになったことで、保育者は、製作コーナーで作業(遊び)モデルを提示しながら、保育室内の各コーナーで仲間とともに遊びを展開し始めている幼児達を見取るということにも重点を置くことができるのである。

その上での各コーナーの幼児達への援助は、遊びの状況を見取り、行き詰まっている場合には、仲間との遊びのイメージを具体化し、共有していけるようなモノ（アクセサリ、食器具など）を製作し、幼児に渡す姿があった（下線③④）。一方で、幼児自身が遊びの展開に必要なモノを作り出していけるよう、そのイメージを、身ぶり、製作物やその材料、言葉かけによって伝える姿もあった（下線⑥⑩）。これによって幼児は触発され、製作コーナーで遊びに必要なモノを作り、それによって遊びを展開させようとする姿があった（下線⑦⑪⑬）。また、幼児自らが自身の遊びに必要なモノをイメージし、製作コーナーに来て、作り始める姿もあった（下線⑤⑫⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿）。これに対し保育者は、幼児の志向を見取り、作ることによってより具体化され、仲間との遊びを展開できるよう援助をおこなっていた（下線㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿）。

ここでの保育者は、製作コーナーにおいて、保育者と幼児および幼児間の同調関係を築くことをベースにしなが、さらにクラスの幼児全体を見取り、製作コーナーと遊びの拠点とでの“作る－作ったモノを用いて遊ぶ”といった往還によって、それぞれの拠点（居場所）での遊びが発展していけるよう援助をおこなっているのである。それによって製作コーナーでは、それぞれの遊びに必要な作業が展開される。そのことで、固定されつつある幼児同士の関係（仲良し）だけではなく、クラス全体の幼児達が他児の遊びや作る活動から刺激を受け、お互いを見合い、学び合うようになっていくことが考えられる。つまり、動作共有をとともう同調関係をベースにして、クラスの幼児全体に“見る－見られる”関係が築かれていくことによって、幼児の主体的な遊びがさらに展開していくとともに、3歳児クラスの集団形成が促されていくことが考えられるのである。

4. おわりに（全体考察）

本実践研究では、3歳児保育の遊びの場面において、幼児達が集団を形成し、かつ主体的に遊びを展開するための実践方法として、製作コーナーを基盤にした保育の可能性に着目し、実際の実践からその検討をおこなった。そのなかでまず考えられたことは、製作コーナーにおいて、保育者が作業（遊び）モデルを提示することによって、多くの幼児達はその場に引きつけられ、さらに、動機づけられることで、自発的に遊びを始めていることである。それとともに、この保育者の作業（遊び）モデルは継続して提示されるので、保育者の言語教授によって幼児の遊びが方向づけられることはとても少ない。主に、作業（遊び）モデルを見てまねる（学ぶ）といった主体的な観察学習によって遊びが展開されているのである。つまり、製作コーナーを中心に展開される遊びは、幼児の自発性および主体性が保障された上で展開されていることが考えられるのである。

次に考えられたことは、この実践での担任保育者は、あまり動きまわらず、作業モデルを提示しながら製作コーナーの決まった場所にいることが多いことである。そのことによって、製作コーナーやその近くに引きつけられている幼児達を十分に見ることのできる状況性をつくりだせている。クラスの幼児全体を見ながらも、個々の幼児の状態を見取りやすくしていることが考えられる。援助を必要とする幼児に適時にかかわることを、より可能にしているのである。幼児にとっても、常に担任保育者の存在を近くで確認できることになる。未だ不安定な複数の幼児達が、個別に保育者と直にかかわらなくとも、保育者から見守られているとの実感をもちやすく、安心して遊びに取り組めるようにな

ることが考えられる。つまり、製作コーナーにおける人的環境としての保育者の存在は、クラスの幼児全体（クラス集団）がそれぞれに安定した居場所をもち、自ら遊びを展開していけるようになるための作用として機能していることが考えられるのである。

さらに考えられたことは、製作コーナーは、保育者との動作共有をともなう同調関係によって、クラスの多くの幼児が集い、手を動かす作業がおこなわれるようになる。この動作共有が幼児達にも伝播されることによって、幼児間においても同調関係が築かれていくのである。クラスの幼児達は、この同調性をともなう心地よい関係を基盤にして、お互いの作業や遊びを見合い、学び合うといった“見る－見られる”関係へと発展させていくのである。このような関係性を含み込んだクラス集団が形成されることで、幼児達が主体的に遊びを発展させていくことを、より可能にすることが考えられるのである。これらのことから、製作コーナーを基盤にした3歳児保育は、幼児の主体性を十分に保障しながらも、同調関係や“見る－見られる”関係を含み込んだクラスの集団形成に意義をもつことが、本実践研究を通して明らかになったのである

注および引用文献

- (1) 小川 (2010) は、『遊び保育論』において、「遊び保育」を実践者する保育者は、「幼児たちと遊びを一緒に作り上げていくことが仕事」、さらに「幼児たちと遊びを保育室の中で一緒に作りあげる演出家のようなもの」と位置づけ、保育者の幼児の遊びに対する関与を重視している。
小川博久 (2010) 遊び保育論. 萌文書林. 3
- (2) 本研究の対象園である認定こども園A幼稚園では、2歳児保育においても、保育者と幼児とのかかわりを基盤として、幼児同士が遊びを通してかかわり合いをもてるようになることを重視し、製作コーナーを基盤にした遊び保育を実践している。
高橋健介・中山昌樹・中田幸子・猪越恵美 (2013) 2歳児保育の遊びにおける製作コーナーの意義について－保育者と幼児との同調関係と“見る－見られる”関係の構築－. ライフデザイン学研究. 第8号. 東洋大学ライフデザイン学部. 145-160
- (3) 中坪史典・松本信吾・朴恩美・古賀琢也・前田佳恵・七木田敦・山元隆春・財満由美子・林よしえ・上松由美子・落合さゆり (2009) 協同遊びの萌芽を育む援助に関するリソースの構築－3歳児における保育者の個に応じた支援－. 広島大学 学部・附属学校共同研究紀要. 第37号. 163-168
- (4) 横山真貴子・竹内範子・上野由利子・堀越紀香 (2011) 新たな幼児教育の創出に向けて、幼稚園教育の成果を問う試み－幼稚園の3歳児保育の内容に着目して. 教育実践総合センター研究紀要. 奈良教育大学教育学部附属教育実践総合センター. 第20巻. 327-335
- (5) 前掲 (1). 65
- (6) 岩田遵子 (2011) 保育実践をフィールドとするエスノグラフィーとは何か. 子ども社会研究. 17号. 134
- (7) 本研究での「集団保育」とは、一斉活動や集まりの場面で展開される保育に限定するものではなく、幼児自身が展開する遊びを含んでいる。つまり、幼児が保護者から離れ、幼稚園、保育所、認定こども園において、保育者が立てたカリキュラムのもと展開される保育全体（幼児自身の意思でおこなわれる遊びを含む）のことを指している。
- (8) 奥山順子 (2008) 幼稚園教育における「集団」の意味－3歳児の園生活への「適応」をめぐる－. 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要. 第30号. 121-132
奥山は本論文において、「フォーマル集団」を「幼児が自発的に取り組む遊びや生活の中で自然発生的に生まれる集団や、偶然的なかわりによる関係を含み、それらが多様に絡みあったもの」と位置づけている。
- (9) 加藤繁美 (2010) 「自分づくり」のアンサンブルとして形成される「生成する子ども集団」－喜びと希望に

- 開かれた「集団づくり」の課題と可能性－. 現代と保育. 77号. 61
- (10) 同上. 70
 - (11) 小川博久 (2011) 「保育」の専門性. 保育学研究. 第49巻第1号. 107
 - (12) 同上. 107
 - (13) 前掲 (1)
 - (14) 中山昌樹・小川博久編著 (2011) 遊び保育の実践. ななみ書房
 - (15) 高橋健介 (2012) 遊び保育における製作コーナーの意義とその実践の在り方. 幼稚園じほう. 第40巻第2号. 12-18

謝 辞

本研究をおこなうにあたって、認定こども園あかみ幼稚園3歳児クラス主任（当時）長島弥生先生、3歳児クラス担任（当時）坂原由華先生をはじめ、認定こども園あかみ幼稚園の先生方より多大なご支援とご協力をいただきました。ここに記して感謝申し上げます。

Meaning of Early Childhood Education and Care
to Have Thought Much of the Making Corner in the Three-Year-Old Class
—Forming Group and Play by Synchronism of Motions—

Kensuke Takahashi, Masaki Nakayama, Sachiko Nakada, Megumi Inokoshi

Abstract

The meaning of making corner and the support for child about playtime reviewed by analyzing the observed document of the practice to have thought much of the making corner in the three-year-old class. The intentional making model of kindergarten teacher in making corner generates the motive of the child, makes synchronism of motions which used material. Then, kindergarten teacher and child become the synchronal relation. This relation in making corner makes independent play which concerns material of the three-year-old child. By sync-ability's rising, this relation changes to the seen relation to see each other at kindergarten teacher and child, among children. The group which contained these relationships in the three-year-old class is formed. By learning each other, child develops play.

Keywords: making corner, practice of education and care in three-year-old class, forming group, play